



▲**絵下山** えげざん

■茶臼山入口 (130 分)、矢野上登山口 (90 分)、日広団地登山口 (90 分)、東麓駐車場 (60 分)

▼北から広島ホームテレビ (HOME 塔)、テレビ新広島 (TSS 塔)、地上デジタル放送 (デジタル塔) の三つのテレビ塔が聳え立つ (2011 年 7 月、アナログ放送の終了により HOME 塔、TSS 塔は役割を終える)。▼HOME 塔の立つ場所が一般に「絵下山」と呼ばれている。▼HOME 塔前に頂上広場、TSS 塔前とデジタル塔前にはあずま屋がある。▼いずれも西方向に視界が開け、広島市街地から似島・宮島・江田島・倉橋島などの多島美が楽しめる。



▲**絵下頭** えげがしら

■HOME 塔 (10 分)、東麓駐車場 (50 分)

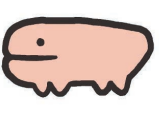
▼絵下山は東西二つの大きなピークを持つ。HOME 塔のある西側ピークが一般的に「絵下山」と呼ばれ、東側ピークは「絵下頭」と呼ばれる。▼「絵下頭」はこの一帯の最高地点で矢野三山の東峰として見える。▼山頂には大きな岩があり、この岩に上って休憩する人も多い。▼東方向に視界が開け、本庄水源地、灰ヶ峰、野呂山などが望める。▼北側に「天狗岩」という巨岩がある。



■**矢野三山の概要**

「矢野三山」とは、広島市安芸区矢野地区の南方に聳える絵下山 (593m)、発喜山 (476m)、明神山 (495m) のこと。矢野小学校の校歌には「三つか山」と表現されている。最高峰絵下山へは、矢野地区からだけでなく、安芸郡坂町、呉市天応地区・焼山地区などからの登山道もあり、各方面からの登山者が訪れる。起伏に富む山谷、見事な眺望、四季折々の花、鳥や虫の鳴き声。豊かな自然は初心者から熟練の登山者まで、幅広く迎えてくれる。

矢野地区は古くから開け、絵下山麓には弥生遺跡、神武東征伝説ゆかりの神社、中世の山城跡などがある。弥生時代の「岡谷(おかのたに)遺跡」からは「謎の動物型土製品」が出土。この土製品をモチーフに、矢野南小学校のマスコット「やのみー」が考案された。



中世の山城・矢野城には、南北朝時代に悲壮な覚悟で大軍に立ち向かった「熊谷蓮覚 (くまが いれんがく)」や、室町時代に矢野を平和に治め文化や経済を発展させた「野間氏五代」など郷土の歴史物語もある。

昭和の終わりから、「安芸矢野ニュータウン」が開発され、岡谷遺跡や狐が城古墳は発掘調査の後に壊された。里山は矢野の住民の「入会 (いりあい) 山」として活用されていたが、近年は山に入る人も少なく、荒れた山道も多いのが実状である。矢野三山は宝の山。ルールとマナーを守り、多くの人が宝を探すことによって、もっともっと魅力的な山になるに違いない。



▲**発喜山** ほっきさん

■野間神社まで=矢野上登山口 (60 分)、日広団地登山口 (60 分)

▼矢野三山の高峰で、二つのピークがある。▼北側ピークは室町時代、矢野を中心に広島湾東岸を治めた野間氏の居城、矢野城 (別称: 保木城・野間城) の一部で、野間神社がある。▼野間氏は五代 110 年間にわたり領地を平安に治め、矢野の文化・経済を発展させたが、戦国時代の始まりに毛利氏に滅ぼされた。▼北方向に矢野・海田の市街地が見える。▼南に 10 分ほどで発喜山の頂上 (南側ピーク) に至るが、気づかずに通過しがちである。



▲**明神山** みょうじんさん

■明神山入口 (60 分)、茶臼山 (70 分)、茶臼山入口 (90 分)

▼矢野三山の西峰。矢野側から見れば円錐形の美しい山。▼一般には標高 495m とされているが、国土地理院地図では 502m。▼登山道は急峻。絵下山からの下山にこのルートを使う人が多い。▼頂上からの眺望はほとんどない。▼明神山から茶臼山を通り、牛の首岬へとつながる尾根は、矢野城の天然の城壁となっていた。



●**矢野城跡** やのじょうあと

■矢野上登山口 (30 分)、日広団地登山口 (30 分)

▼広島県史跡。史跡碑と野間氏の墓石がある。▼城の遺構はこのあたりから発喜山頂上周辺まで点々と残る。▼南北朝時代 (14 世紀)、広島島の豪族のほとんどは北朝に味方したが、熊谷蓮覚は少数で矢野城に籠りこれに対抗。大軍を相手に 4 日間を持ち堪えたが、ついには全滅した。▼220 年後 (16 世紀)、時の矢野城主・野間隆実 は毛利元就の謀略におち、非業の最期を遂げた。「野間火」という火の玉伝説がある。



●**陰野の滝** いんののたき

■陰野の滝入口 (40 分)

▼発喜山と明神山の間が陰野という谷で、ここから宮下川が流れ出す。▼川の西側の道を登ると、大きな砂防ダムが二つある。▼先に右手に結構立派な滝が見えるが、それは陰野の滝ではない。▼沢を渡って一旦、発喜山西斜面を登り、谷に下った位置に本当の「陰野の滝」がある。▼深い谷にあり「幻の滝」とも呼ばれる。(写真は 2009 年 5 月撮影。安芸区役所提供)



▲**茶臼山** ちゃうすやま

■茶臼山入口 (20 分)

▼矢野では「茶臼」が転じて「ちゃあすけ」と呼ばれ親しまれてきた。坂町では「高尾山」と呼ばれている。▼矢野城の支城があり、水軍を有した野間氏が広島湾に行く船を見張ったという。▼軽装で気軽に登ることができる。▼頂上は公園になっており、あずま屋、ベンチ、トイレもあり、坂町側の道はコンクリート舗装されている。▼西方向へ坂町を越えて、広島湾の眺望が良い。▼春にはサクラの花が美しい。



●**多家宮** たけのみや

■現在は道が塞がれて行きにくい状態

▼「多家神社」とも呼ばれるが、現地の案内板の表現である「多家宮」を採用した。▼様々なものに阻まれ、現在は「幻のほこら」状態である。▼ほこらの後ろには「多祁理 (たけり) の滝」がある。▼神武天皇東征の伝説にゆかりの地であり、菅原道真を祀った「矢野天神」でもある。▼残念ながら、ほこらは崩れ始めている。



●**小林社** こばやししゃ

■土居交差点 (5 分)

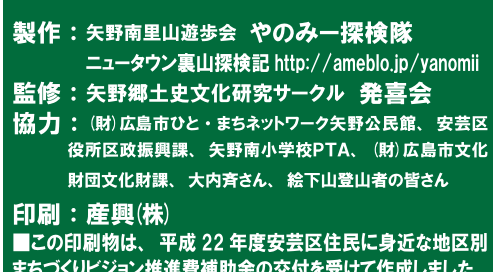
▼ニュータウンの開発で飛び地となった小山にあるほこら。▼金毘羅堂とも呼ばれていた。▼この場所に矢野城の支城もあったらしい。▼近くにあった弥生時代の岡谷遺跡は団地開発で消えた。



●**鷹野宮歩道橋** たかのみやどうきょう

■日広団地登山口 (5 分)、大坊観音入口 (5 分)

▼広島熊野道路を跨ぐ歩道橋。▼矢野城跡・野間神社・絵下山への登山者を迎える。▼朱の欄干、ギボシが特徴的。▼スロープも付いており複雑な形になっている。



●**大坊観音堂** だいぼうかんのどう

■矢野天神バス停 (5 分)、土居交差点 (10 分)

▼野間氏ゆかりのお堂の一つ。▼乳授け観音ともいわれ、かつては女性が参拝した。▼木造部分は崩れているが、奥にはしっかりとした土蔵がある。



●**絵下観音堂** えげかんのどう

■矢野天神バス停 (15 分)

▼広島熊野道路の絵下谷橋の下、山の中にぽっかりと開かれた平地にある。▼絵下頭の北の麓にあたり、お堂の周りでは絵下谷川の水を利用して、水田が営まれている。

製作: 矢野南里山遊歩会 やのみー探検隊
ニュータウン裏山探検記 <http://ameblo.jp/yanomii>
監修: 矢野郷土史文化研究サークル 発喜会
協力: (財) 広島市ひと・まちネットワーク矢野公民館、安芸区役所区政振興課、矢野南小学校PTA、(財) 広島市文化財団文化財課、大内育さん、絵下山登山者の皆さん
印刷: 産興(株)
■この印刷物は、平成 22 年度安芸区住民に身近な地区別まちづくりビジョン推進費補助金の交付を受けて作成しました。
■無断複製、無断転写を禁じます。
■2011 年 1 月第 1 版発行